

## 読みたい聴きたい

福岡市内の書店『ブックスキューブリック』のオーナー・大井実さんに、毎回テーマに沿った本と音楽を紹介していただきます。ジャンルを超えて楽しめる作品にぜひ、触れてみてください。

撮影/スタジオパッション

# ココロに、 ウツクシク

## ( 後世に伝えたいアーティスト )

信念を貫いて作られた作品は、必ず、次の世代にも伝え続けられると思います。

作家や画家などあらゆるジャンルのテーマを一冊にまとめて紹介している本のひとつに、平凡社のコロナ・ブックスがあります。これまで稲垣足穂や澁澤龍彦、南方熊楠などが取り上げられているこのシリーズは、高価な画集や写真集に比べ、サイズもコンパクトで安価なため、興味をもったアーティストや作家などを深く知りたい時の入門書としておすすめです。

その中で今回私が紹介したいのは、写真家・植田正治をテーマにしたもの。彼の作品はもちろん、親しい人たちのコラムなどから、植田正治の世界に触れることができる一冊です。鳥取砂丘を撮影の舞台にしたことで知られる彼の作品は、この本の表紙の写真からも分かるように、無表情な子どもや大人らが、淡々と横一列に並んでいる。着物の女性がぼつんと座っている後方から喪服のような黒服を着た女性が歩いてくる構図を撮影したりと、日常とはかけ離れた感覚を覚えてしまう、いわゆるシュールレアリズムの世界が広がっています。この作風が海外では、植田調 (ueda-cho) と評され、世界

的な写真家になった彼ですが、生涯アマチュアカメラマンに徹したことでも有名。プロにはならずいつまでも自由で、時代に流されない強い意志で写真を撮り続けたその姿勢も含めて、植田正治という写真家は、ぜひ後世に伝えたいと思えるアーティストのひとつです。

そしてここ数カ月、このコーナーで紹介し続けているブラジル音楽も、ぜひ知ってもらいたい音楽のジャンルのひとつです。

ギターリストでありシンガーソングライターでもあるトニーニョ・オルタの『トニーニョ・オルタ』は、ブラジル音楽の奥深さを堪能することができる一枚。大地の広がりを感じさせるようなギターの音色がとても気持ちいいんです。中でも私が好きなのは、一曲目の「アキ・オー!」。イントロが始まった瞬間に爽やかな気持ちになる、サンバのリズムがたまりません。このアルバムには、ボサボサな髪の毛や、はだけた服が可笑しいジャケットのビジュアルからは想像できない(笑)、美しい名曲が揃っているので、ぜひ手に取ってみてください。



「植田正治の世界」  
コロナ・ブックス  
平凡社  
1,680円(税込)



「トニーニョ・オルタ」  
EMI ミュージック・ジャパン  
2,548円(税込)

■ 大井実さん  
話題の一冊をはじめ普遍的な作品を揃える姿勢が、本好きからも注目を集めている書店『ブックスキューブリック』のオーナー。今年の秋にオープンする2店舗の準備で大忙しの毎日。  
ブックスキューブリック  
福岡市中央区赤坂2-1-12 ネオグランデ赤坂1階  
☎092-711-1180 <http://www.bookskubrick.jp>

